

オンライン服薬指導を受ける患者から見たその利点や課題点 ：半構造化インタビューによる探索的調査

Benefits and issues of telepharmacy from the patients' perspective : an exploratory survey through semi-structured interviews

○松本 優作¹、木崎 速人¹、池田 裕樹²、仲村 昌平³、喜納 信也³、永井 堯範²、那須 隆史²、宮本 興治²、堀 里子¹

○Yusaku Matsumoto¹, Hayato Kizaki¹, Yuki Ikeda², Shohei Nakamura³, Shinya Kina³, Takanori Nagai², Takafumi Nasu², Koji Miyamoto², Satoko Hori¹

1. 慶應大薬、2. 協和ケミカル、3. ミナカラ

1. Keio Univ. Fac. Pharm., 2. Kyowa chemical Inc., 3. minacolor Inc.

目的：現在、国家戦略特区の過疎地等で認められている遠隔薬剤指導（オンライン服薬指導）は、オンライン診療と合わせて医療へのアクセシビリティ改善への寄与が期待されている。本研究では、実際にへき地で実証運用されているオンライン服薬指導を利用する患者が感じるその利点や課題点を、インタビュー調査により探索的に検討した。

方法：2019年10月に、オンライン服薬指導を受けた経験のある患者を対象として、インタビューガイドに基づく半構造化インタビューを実施した。インタビュー内容は逐語録化し、コーディング、カテゴリ化（〈〉で示す）を複数の研究者で行い、質的に分析した。

結果・考察：対象者の年代は60代が3名、90代が1名、性別は男女2名ずつであった。患者はオンライン診療・服薬指導に関して、〈病院・薬局に行かずに薬の入手が可能〉、〈医療機関が遠い地域での診療の簡便化〉といった地理的課題の解消による利点を挙げるだけでなく、〈自分の都合で診療時間の設定が可能〉、〈働き世代の通院に掛ける時間の省略〉といった利便性の向上についても実感していた。一方で、〈高齢者のタブレット端末の操作の難しさ〉が課題点として指摘された。へき地在住者は高齢で独居の場合が多いことから、高齢者を対象としてタブレット端末への抵抗感をなくしたり、操作を支援したりする取り組みが必要であると考えられた。本調査では、オンライン上での医師への相談から受診を勧められ、疾患に気づいた経験をもつ患者がいた一方で、これまで薬剤師との接点がなかったためか、オンライン上で薬剤師に相談した経験をもつ患者は少なかった。今後、へき地でのオンライン服薬指導の有用性を向上させるためには、へき地における医療や健康サポートにおける薬剤師の関わり方についても同時に検討していく必要があると考えられた。